



Title	統計集計計算用プログラム『P. Health』
Author(s)	古森, 俊輔
Citation	大阪公衆衛生. 1989, 55, p. 12-13
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83693
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

大阪府狭山保健所 古 森 俊 輔

ある調査を行った。その結果を分析するためにクロス集計をしたい。

調査した標本数が小さければ手作業でもよいが、数百、数千ともなると追いつかない。このようなとき、私は『P. Health』というコンピュータプログラム（ファミコンのソフトのようなもの）を利用している。

これは自治医科大学公衆衛生学教室で開発されたPC-9800シリーズ用の汎用のプログラムである。詳細についてのお問い合わせは、自治医科大学出身者か、筆者までお願いします。

1 機能（次ページ図1）

このプログラムを起動させると、メニュー画面が出てくる。あとは、画面上の指示に従いながら、データの入力、および解析を行う。

・ファイルの作成と編集：

解析しようとするデータをファイル上に作成。データの変更や、追加、階級わけなども行う。

・クロス集計：

作成されたデータファイルを使い、任意に選んだ2変数についてのクロス集計を行う。条件の設定も可能。

・平均値と相関係数：

各変数の平均値、標準偏差、2変数間の相関係数を計算。散布図も作成できる。

・多変量解析：

重回帰分析を行う。2つ以上の独立変数が与える重み（回帰式）を計算する。

・日本地図作成、府県地図作成：

府県別データ、市町村別データを用いて地図の色分けを行う。

2 使ってみて

市販のデータベースは各種あるし、自分の

業務に適しているものを見つけている人も多い。

どのデータベースにおいても、データの入力は煩雑である。この『P. Health』も同様である。さらにこのプログラムの欠点は、データを数値（しかも整数）でしか入力できない（従って名前、住所などは符号化しないといけない）点と、BASIC（コンピュータの言語の1種、こう書くと、さらに分からなくなる？）で書かれているため、演算速度がやや遅いことである。

しかし、それにも関わらず、私がこのプログラムを多用している理由は、いろいろな条件にあうデータのクロス集計がやりやすいからである。

また、BASICで書かれているサブルーチンプログラムを書き換えることによって、ファイル上のデータの加工が簡単にできる。そのため、データ入力を簡略化することも可能である。

3 最後に

このプログラムは、数千件までのデータ（アンケート調査や、健診結果など）を疫学的に

分析するときには、有用である。とくに、BASIC を多少ともかじったことのある人には、自分の手足のように動いてくれるだろう。

なお、ユニセフに多少の寄付をすることでこのプログラムのバックアップが取れることも魅力のひとつである。

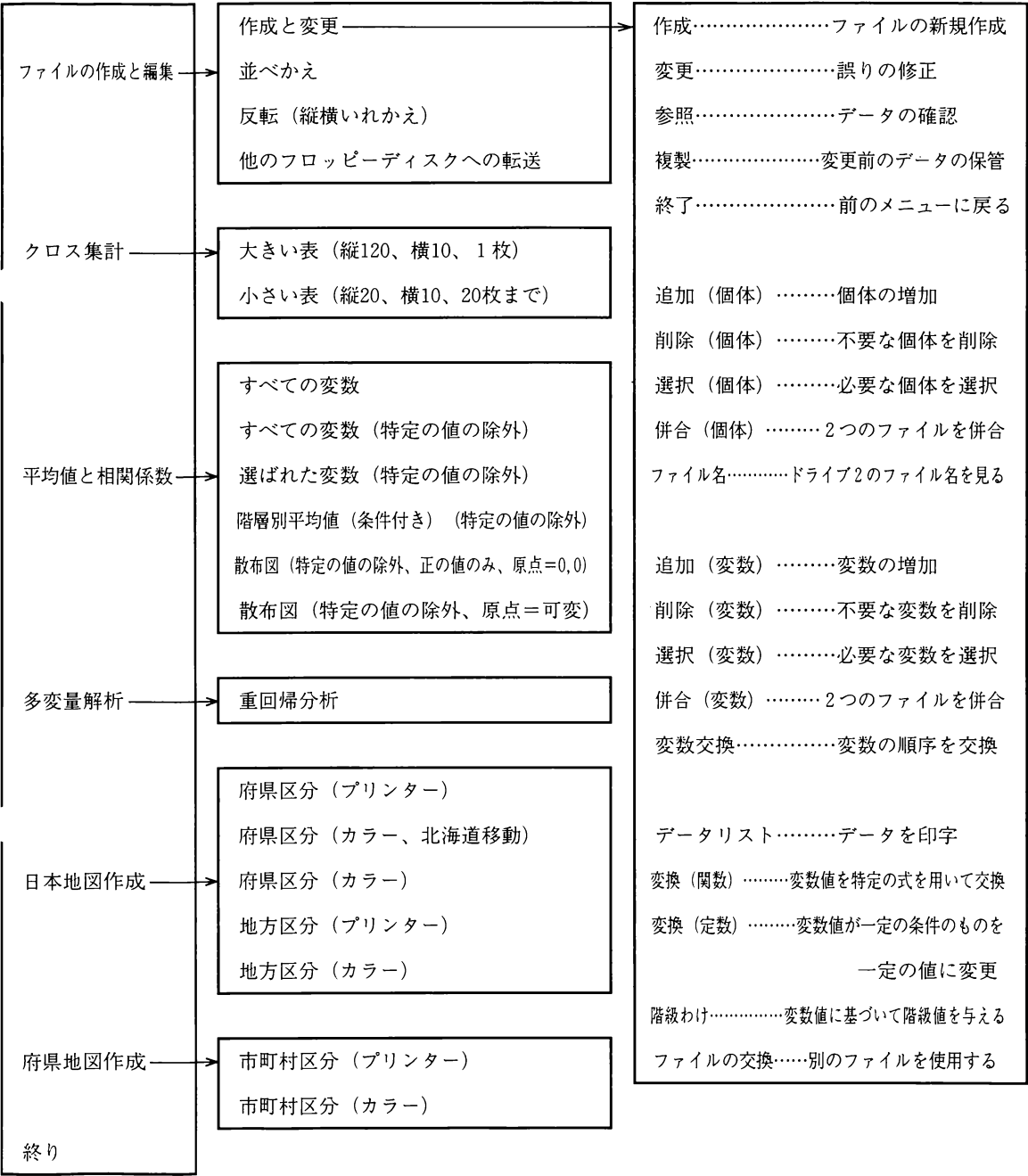


図 1 『 P. Health 』 機能図